



「ウサギのコハクが教えてくれたこと」

学校長 のむら 野村 ひかる 光

学校で飼っているウサギの黑白(コハク)が、9月10日の夜に亡くなりました。コハクは、2014年9月23日生まれて、今年で10歳になる、ウサギとしてはとても長生きのウサギでした。

去年の6月頃、首が片側に大きく傾いてしまう症状がみられ、病院に掛かりました。これまでは飼育小屋で飼われていたのですが、病気のコハクにとって、夏の暑さや冬の寒さは耐えられるものではない、かわいそうだということで、校長室や職員室前の廊下に移しての世話が始まりました。病気のコハクのところには、毎日いろいろな人がやってきました。廊下を通りかかる人たちも、コハクに対して気遣う言葉をかけてくれていました。高学年と低学年の子どもたち、保護者と技術員…など、普段はあまり関わることのない人たちが一緒になってコハクを心配し、囲む姿を見ました。校長室にいる私には、みんなの優しい言葉がいつも耳に届いてきました。

残念ながら最期まで首の病気は治ることはありませんでしたが、毎日根気強く世話を続けた環境委員会の子どもたちや関わった人たちのやさしさのおかげで、病気に罹ってから1年以上生き続けることができたのだと思います。

コハクが亡くなった後も、毎日、手作りの花束やコハクの好きだったクローバー、そして、手紙などが届いています。みんなのやさしさに心があたたかくなります。コハクはいろいろな人と人をつなげてくれました。そして、大切ないのちについて考える機会をくれました。



10月になり、真夏のような暑さの日はなくなりました。学校では、10月26日(土) 午前中開催のYSFに向けて練習が続いております。より多くの方に子どもたちのがんばる姿を見ていただくため、昨年度に引き続きシート等は敷かず、譲り合ってお参観をしていただくこととなります。限られたスペースでの観戦のため、ご理解とご協力をお願い致します。

9月の石川県能登地方の記録的豪雨で被害にあわれた方々に、心よりお見舞い申し上げます。